

大学初年次教育における英語eラーニング「ぎゅっとe」導入の報告

小堀馨子

帝京科学大学総合教育センター

An essay on an e-learning system program in English education called “gyuto-e”
for the First-Year Experience

Keiko Grace KOBORI

キーワード：eラーニング、ぎゅっとe、英語、初年次教育

1. はじめに

「大学における教養教育の主な役割は、言うまでもなく学生に豊かで深い教養を身に着けさせること」さらに、「社会や自然に対する知的好奇心を有し生涯にわたって自力で学修を続けていくことができる人間を育成し、知情意の均整のとれた健全な人格を備えた¹⁾人材を世に送り出すこと」だと近年改めて再確認されつつある*¹⁾。

一方で、教養科目は大学初年次に開講されることが一般的であるため、高等学校（後期中等教育学校）と大学（高等教育学校）での専門教育の接続を意識した教育が求められている。即ち、入学した学生が戸惑うことなく大学での学修を進めていけるような配慮が必要である。

多様な入試制度の影響もあり、新入学生の間には基礎的な知識や技能の習熟度に大きなばらつきが生じており、高等学校までの教育により一部教科への強い苦手意識を持ってしまった学生も多数見受けられる。多様な学習水準や意識を持つどの学生達に対しても必要最低限の基礎技能を修得させ、同時に大学教養としての学問の本質や面白さを伝えるにはかなりの工夫が必要である。これは英語科目においても同様で、基礎的な知識や技能が不足している学生にも大学に相応しい教養教育を行うことが初年次教育には求められる。

この課題に対し、特に外国語教育においては習熟度別少人数クラスの導入による教育効果の向上が図られていた*²⁾。しかし、昨今の大学では、少人数クラスの開設が学内事情により難しい場合も見受けられる。またGPA制度の導入により、習熟度別クラスの成績評価に関しては今までにもまして慎重な対応が求められている*³⁾。

そこで本稿では、制約のある条件下で習熟度別少

人数クラスと同様の効果をeラーニング教材の導入によって達成可能かどうか検証したので報告する。

2. eラーニング導入の背景と意義

eラーニングを始めとするICT教育の推進は文部科学省が既に平成19年（2007年）3月の報告書で掲げ*⁴⁾、2010年代には多くの私立大学でeラーニングの導入が行われていた。本学においても、医療科学部看護学科⁶⁾及び東京理学療法学科⁷⁾では少なくとも平成25年度（2013年度）よりeラーニングによる国家試験対策支援が行われ、英語教育でも2015年以前からチエル株式会社の『CaLabo Bridge』を活用してきた。これは広義のeラーニングであったと言える。

ここで本稿におけるeラーニングの定義を述べておきたい。eラーニングのeは“electronic（電子的）”の意であり、狭義には「ネットワークを利用した教育」を指すが、広義には「教育の内容を改善し質を向上させるために電子的技術を利用するもの」を指すことができる*⁵⁾と松下（2018）は定義する。狭義には例えば本稿で取り上げる「ぎゅっとe」のように、課題がウェブ上のコンピュータプログラムを通じて提示され、成績評価及び学習成果のフィードバックまでが全てオンラインで完結する型の教育方法であると言えよう。教員は得られた各学生の成績評価を集計し、主に最終的な科目の合否判定に関与する。一方、広義の場合には、教務システムを通じて教員が電子媒体で作成した課題文書を配布し、学生に同システムもしくはメールを用いて提出させる仕組みや、場合によっては教員と学生がEメールでやり取りする原始的な手段までもその範疇に入れることができる。この場合には成績評価やフィードバックに関しては、教員個人の資質に依拠する要素

の比重が大きくなる。

広義のeラーニングは本学の英語教育を含む外国語教育でも既に行われていたが、狭義の「インターネット上で全て完結する英語学習を行う」型のeラーニング教材を用いた教育に関する本学からの研究成果について筆者は未見である。本学では平成28年度（2016年度）にGPA制度が導入されて以来、習熟度別クラスで実施する英語教育に関して公平性の観点からの指摘を受けてきた。つまり、上位クラスと下位クラスでそれぞれの学生が得た成績は等価か、という問題である。講義を習熟度別クラスで進めても最後に統一テストを実施すれば全学生に対して公平な結果が出ると言えるが、本学では昨年度まで、年度初めのクラス分けプレースメントテストのみを実施しており、学年末の統一テスト施行は未だ実現していない。

その現状を踏まえて、公平性を担保した学修を進めるための試みとして、狭義のeラーニング教材であるネットワーク完結型の英語学習プログラムはどの程度使えるか、という問いに対する答えを探った。

3. 「ぎゅっとe」選定に至る過程

本学は一般入試で英語を必須科目としていないので、入学者の英語力にはばらつきが出るのは不可避である。よって、中学校卒業程度の学力にも達していない者がいるという実態を認識した上で、そのような者に対するリメディアル教育の実施は回避できない。しかしリメディアル教育を大学教育の正課内で行うことは避けるべきであり、大学教育の正課で学ぶに相応しい内容のeラーニング教材を選ぶ必要がある。

そのような基準の下に選ばれたのが北辰映電株式会社「ぎゅっとe」である。同社のウェブサイトでは「ネットワーク型集中英語学習プログラム」と定義されるこの「ぎゅっとe」は、同社サイトの沿革^{*6}によれば広島市立大学国際学部の二人の教授、青木信之^{*7}と渡辺智恵が考案したIntensive English Training on the Web (IETW) が原型となっている。同プログラムは1998年度から課外授業として希望者のみの受講で開始、2001年度から同大学の正規英語科目として単位認定された。2002年度に文部科学省から「特色ある大学教育支援プログラム」に採択され、2003年度から行った他大学との共同研究や自宅アクセス実験を経て、2005年度から「ぎゅっとe」として一般販売を開始した。2020

年現在では名古屋大学^{*8}、立命館大学^{*9}、島根大学^{*10}、広島修道大学^{*11}、岩手県立大学^{*12}などが英語の授業の一部で採用している。

「ぎゅっとe」はリーディング、リスニング、文法、スピーキング、ライティングといった英語の各要素に対応する学習プログラムと、これを支えるラーニングマネジメントシステム、スケージュリングシステムや、学習カルテで構成され、「英語の上達に不可欠な学習量を徹底的に与え」て受講者の「英語力に質的变化を起させる」事を目指している^{*13}。多くの大学で採用している週に1-2回、90分授業での英語講義（本学では週1回90分授業）では不十分と主張し、4週間から8週間での集中講義による英語力の飛躍を目指す「ぎゅっとe」では受講者のTOEIC結果を自ら公表しており、受講前の平均450点から受講後には平均で120点もの向上がみられたとしている。450点は英検準2級、570点は同2級に相当するとされており^{*14}、推定される本学の学生の英語レベルよりは多少高いものの大きな差はないと筆者としては考える。

また「ぎゅっとe」では、学習システムだけでなく、教材そのものにも工夫がある。当プログラムの機能説明を引用すると「例えば、文法プログラムでは、受講後、あなたは文法のどういった項目が特に弱いのか、ということ診断してくれ」、診断は大項目、小項目の2段階で行われる。その具体例として「例えば、仮定法が弱いと診断された場合（大項目診断）、さらに細かく、仮定法過去と直説法（単なる条件文）との区別がついていないといった診断（小項目診断）がなされ」、「そういった診断情報が管理者や教師の「ぎゅっとe」学習カルテに反映され、学習者それぞれにより合った効率的な学習を可能に」すると謳われている。

本学の状況を考えると、「ぎゅっとe」が求める集中訓練型での英語教育、即ち4週間から8週間の集中的な学修期間に同プログラムを消化して学力向上を目指すカリキュラムを作成することは困難である。その一方、大学における英語教育実践者自ら開発して商業化に至った「ぎゅっとe」は教育効果への成果が示されている。本学においても、無料の試用期間を利用して「英語が不得手な学生」への効果も確認出来たため今回の選定に至った。

4. 「ぎゅっとe」の導入方法

4-1. 2019年度前期の取り組み

本学における「ぎゅっとe」の採用は、2019年度

前期には応用英語の2クラスのための課外学習用として最初に実施した。導入レベルは「基礎・初級・中級・上級」の4レベルの内、最も易しい基礎レベルを導入し、構成内容はリーディング初級（ボキャブラリ付帯）とリスニング初級、文法とした。「ぎゅっとe」は問題文も解答の選択肢も全て英語で構成されるが、基礎レベルだけはどちらも日本語で表記する点も、英語を入試科目で選択してこなかった学生が相当数いるので、基礎レベルから中級までの幅広い学力の学生が対象となる本学には最適と判断した。

諸般の事情で導入時期が遅れ、本学期では6月半ばから8月上旬にかけての8週間程度の実施となった。導入前に聴き取り調査を行った成城大学文芸学部教授の吉田直希からは、各レベルを当初の設計通りに4-8週間で学習修了するのは難しく、12-15週間での実施が適切、途中で小テストを数回実施すると効果などの示唆を受けたが、導入時期の遅れから小テストは実施しなかった。また、任意の学習が成績へ部分的に反映されることのみを提示し、教員の教室ガイダンス、授業中での口頭説明や本学の教務システムであるキャンパススクエアの掲示を随時実施し、学習を促した。

4-2. 2019年度後期の取り組み

前期での実施状況を踏まえ、2019年度後期での「ぎゅっとe」導入は以下の点で改善を図った。

第一に実施クラスの拡大と多様化である。前期では2クラスだった応用英語での導入を3クラスに増加した上、新たに基礎英語でも1クラスを対象とし、リーディングと文法を重視しながらリスニングとライティングも含めた全15ユニットで高等学校レベルの英語を学習する「総合基礎英語A」を課外学習で利用した^{*15}。

第二の改善点はサポート体制の強化である。以下、具体的に記す。

1 週間目標の明示（学習意欲向上サポート）

応用英語ではリーディングとボキャブラリーを各3題にリスニングと文法を各50題、基礎英語では2ユニットをそれぞれの目標とし、学習意欲の継続を図った。

2 「ぎゅっとe」トップページの更新（教育効果向上サポート）

各学生がアクセスする「ぎゅっとe」トップページ（図1）でも週刊目標を随時更新し、授業内でのプリント配布などを補った。また、学習時の注意点



図1 トップメッセージの一例

や操作方法なども記載した他、ミニコラムの掲載で英語への興味を引き立てるような工夫も行った。

3 オンライン小テストの実施（授業効果向上サポート）

「ぎゅっとe」内の機能を利用した小テストを実施した。応用英語クラスの受講者は2週おきに計4回、直前の課題から授業担当者が選定した問題を指定期間内に解答し、基礎英語クラスの受講者は「総合基礎英語A」の最初と最後、ユニット1とユニット15をテストとして受験するよう設定し、受講期間内の成績の向上が数値化できるようにした。

4 不適切学習者への注意喚起（脱落防止サポート）

「ぎゅっとe」のデータシステムの中で計測できる「学習適切度判定」を利用して、問題文をよく読まずに異常な早さで解答する「不適切学習者」を洗い出した上で「ぎゅっとe」での注意喚起メールを送信した。

5. 結果と考察

5-1. 2019年度前期

以下、教員として臨んだ筆者の感想と、学習後に実施した全59通の利用者アンケート結果より考察を加える。アンケート結果の詳細な内容は、選択肢式の各問回答比率を示した図2、自由回答式の内容一覧から特徴ある名詞や動詞の出現性に着目したスコア（印象度）及び出現頻度そのものを集計した図3、そのスコアからワードクラウド分析を行った図4、アンケート項目一覧を示した参考資料1、設問



図2 利用者アンケート・選択肢式設問別回答グラフ一覧

別記述式回答全一覧を示した参考資料2で巻末に紹介した。

前期は「ぎゅっとe」の開始時に学生に対してのモニター協力を依頼し、自分や後輩の使用を想定してレベルの適切さを判断するように求めた。その結

果、明確な因果関係は立証できないものの、口頭やメールでの促しは定期的な学習継続には効果が薄く、学期末になって取り組んだ人が多かったが、成績への加点は明らかに促進要素となった。図3のテキストマイニング分析でも「加点」への関心の高さ

5-2. 2019年度後期

後期も前期と同様にモニターとして協力を依頼したが、此度の実施では、学生に対し「ぎゅっとe」を課外学習で行って良い成績を出せば通常点の一部をその成績で置き換えるが、取り組まなくても不利益が出ないように配慮すると事前に説明したところ、取り組む者が減少した。このことから、成績加点という要素は実施への大きな動機づけとなると推測した。

また後期は別の非常勤講師の1クラスでも実施したが、取り組み率が低かった。教員のアナウンスの度合いによって少し差が出る可能性があることがわかった。

小テストを実施したことで、課題に継続的に取り組んだ少数の者は定期的にペース配分をしていたことが、データから判明した。しかし、これが全ての参加者に見られる傾向なのか、英語学習に熱意がある者だからペース配分ができたのか、という点については、有意な結果は得られなかった。

質問対応に関しては、システムにログインできないという問い合わせが最も多かった。ログインIDを学生のメールアドレス兼キャンパススクエアのログインIDであるs19xx000ではなく、19XX000という公式の学籍番号で設定してしまったことが混乱を招いた。次回からは、IDをキャンパススクエアのログインIDと同じに設定すればこの混乱は避けられると予見できる。

一方、後期は現行の習熟度別少人数クラス（本学では30-50人のクラスを指す）を廃止した際に、100人以上の大人数クラスでeラーニング教材による教育を行うことも視野に入れて研究を行った。しかし、IT能力に特に秀でていない教員でも授業と集計業務及びトラブル対応業務を一人でこなせるかどうかの業務量を測定したところ、学生の人数が増えれば増えるほどトラブル対応の数は人数に比例して増大するところから、大人数クラスを一人の教員が単独で運営する方法としては必ずしも最適の解決手段ではないという結論に至った。

なお、その件については外部からの聴き取り調査を行ったが、東京大学における英語教育改革に携わった経験を有する武蔵野大学教授の菅原克也からは、大人数クラスの運用では教員を一人に絞ってもクラス運営を支えるTAや英語教育専門のスタッフが複数必要になり、却って費用対効果では逆効果であるという指摘を自身の経験から受けた。彼の指摘によれば東京大学の英語教育改革において120人と

いう大人数クラスを一時的に導入した理由は、教員の増員を伴わずにより多くの少人数クラスを実現するための苦肉の策であり、他の外国語教育では生じなかった事態であった。また、もう一つの特筆すべき点は、この大人数クラスの問題点がつとに認識され、現在は特別な少人数クラスでない通常クラスでも30人編成クラスを実現しているということである。また立命館大学職員の生野智之からも、同大に設置されている言語教育研究センターのような組織の支えがあって初めて、大人数のクラスを一人の教員が受け持ってeラーニングで効果を上げることが可能になるとの指摘を得た。

そこから得られた結論としては、習熟度別少人数クラスを廃止したとしても、大人数クラスを実施するなら十分な支援体制が必要というものであり、支援体制なしに外国語教育における大人数クラスの導入はeラーニング教材を用いても難しいことが判明した。

6. まとめと今後の課題

以上の点より、ペース配分と量の適切な管理を前提にすれば「ぎゅっとe」の本学への導入は基礎レベルでならば可能であると結論する。運用面では成績に加点することを予めシラバスに記載しておけば、学生は真面目に取り組むことが予想される。成績評価への加点は学習への大きな動機づけとなるが、その一方、課外で継続的に英語を学習する習慣を身に着けることに資する。

技術的な面では、導入の際にはログインIDをキャンパススクエアのIDと同一にするなど、些かの工夫が必要になろう。しかし、「ぎゅっとe」を含めたeラーニングに関する学習支援体制が整備されない限り、eラーニング教材を用いて大人数クラスを運用することは、十分な支援体制が整えられない現況では想定しない方が有益であろう。

今回の実施では検証することができなかったが、今後の課題として「ぎゅっとe」で身に着けた基礎力をもとにして、対面授業で英語を用いて表現したり、考えたりする能力の涵養に寄与する可能性についても検証を継続してゆきたい。

謝辞

本研究は、帝京科学大学総合教育センター共通研究(2)「教養教育における外国語教育の研究(1)」の支援を受けて行った。本学総合教育センターeラーニングワーキンググループメンバーの松影香子

教授には多面にわたるご教示を賜った。本文で述べたように、成城大学文芸学部の吉田直希教授には「ぎゅっとe」の導入について多大なるご教示を頂いた。また、武蔵野大学教養教育部の菅原克也教授には大人数クラスでの英語教育に関して貴重な情報を提供して頂いた。立命館大学言語教育企画課の生野智之氏には同大学における「ぎゅっとe」の活用などの英語教育を含む外国語教育全般に関して多大なる情報提供を頂いた。図版作成にはたちばな科学文化研究所の中西正紀氏の協力を頂いた。ここに厚く御礼申し上げる。

[注] (ウェブサイトは何れも2020年9月8日閲覧)

1. 松影他 (2020)²⁾ p.167.
2. 中等教育における習熟度別少人数クラス導入の効果は長谷川 (2009)³⁾ p.88を、大学教育における習熟度別クラス導入の効果は小笠原(2012)⁴⁾ p.9-10を参照。
3. 豊田・市川 (2007)⁵⁾ p.85-87.
4. 文部科学省 「学習者等の視点に立った適切なe-Learningの在り方に関する調査研究」報告書ウェブサイト
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/08090305/012.htm
5. 松下 (2018) 8) p.195.
6. 北辰映電株式会社 んゅっとe 開発思想と学習効果 ウェブサイト
<http://gyuto-e.jp/school/infomation/development/index.html>
7. その後2013年から2019年まで同大学の学長
8. 名古屋大学教養教育院アカデミック・イングリッシュ支援室ウェブサイト
<http://elearn.ilas.nagoya-u.ac.jp/access/wiki.cgi?page=GEHyoka>
9. 立命館大学言語教育センター E-learning (ぎゅっとe) ウェブサイト
<http://www.ritsumei.ac.jp/gengo/gaikokugogakusyu/e-learning.html>
10. 島根大学外国語教育センターeラーニングサイト
<https://cfle.shimane-u.ac.jp/e-learning/index.html>
11. 広島修道大学 んゅっとeウェブサイト
<http://yaruzo.gyuto-e.jp/menu-shudo/>
12. 岩手県立大学 高等教育推進センター 外国語学習ガイダンス ウェブサイト

- <http://www-liberal.iwate-pu.ac.jp/gaikokugogakusyu/english.html>
13. 北辰映電株式会社 んゅっとe 開発思想ウェブサイト
<http://gyuto-e.jp/school/infomation/development/thought.html>
14. 一例：神田外語学院公式サイト 【一瞬でわかる】TOEICスコアの目安を100点ごと7段階で解説
<https://www.kandagaigo.ac.jp/kifl/contents/toEIC-score>
15. 北辰映電株式会社 んゅっとeウェブサイト
<http://gyuto-e.jp/>
16. 課外学習で「ぎゅっとe」を用いる場合に成績評価の20-30%が適切であるという指摘は成城大学の吉田から受けた。立命館大学でも課外学習で学ぶ場合は教員が授業内で全く取り上げず課外学習をさせるクラス、教員が授業時間の一部を使って「ぎゅっとe」の内容説明を行うクラス、逆に90分間「ぎゅっとe」の教材を用いた授業を行って授業の中で全て完結するクラスの三種類が提供されていた。このように「ぎゅっとe」の用い方にも様々な方法があることが窺える。野澤 (2016)⁹⁾ 参照。

引用文献

1. 帝京科学大学ホームページ <https://www.ntu.ac.jp/tust/index.html>
2. 松影香子, 石田良仁, 金田拓, 小堀馨子, 加賀谷玲夢, 小出哲也, 近藤保彦: 大学教養教育における自然系科目のための「可視化実験」に関する研究報告. *帝京科学大学紀要*, 16: 167-176, 2020.
3. 長谷川修治: 習熟度別少人数クラスの授業効果—高等学校「英語I」を通じて—. *植草学園大学研究紀要*, 1: 87-95, 2009.
4. 小笠原真司: 英語習熟度別クラスの効果的運用について—工学部総合英語ⅢのGTLPデータによる分析—. *長崎大学 大学教育機能開発センター紀要*, 3: 9-20, 2012.
5. 豊田雄彦, 市川豊: GPA制度の導入による適切な成績評価. *JYUGAOKA SANNO College Bulletin*, 40: 81-93, 2007.
6. 武政奈保子, 森實詩乃, 志田久美子, 志村智恵, 石ヶ森一枝, 高田大輔, 吉田千鶴: 看護師基礎教育の国家試験対策におけるeラーニン

- グ学習の効果の中間報告：学習理論によるインストラクション構築の段階とeラーニングの動機付けの比較. 帝京科学大学紀要, 11 : 83-93, 2015.
7. 鳥山実, 大日向浩, 豊田輝, 芹田透, 江口英範, 平林茂：タブレット端末の使用による国家試験対策支援と理学療法技術習得への効果に関する報告. 帝京科学大学紀要, 13 : 271-280, 2017.
8. 松下毅彦：大学教育におけるeラーニングの展開—導入の先に目指すもの—. 広島大学 高等教育研究開発センター 大学論集, 50 : 193-208, 2018.
9. 野澤健：e-Learningを取り入れた英語教育. JUCE, 2016 (4) : 27-30, 2016.

参考資料1 【アンケート項目一覧】

- <仕様1>：インターフェイスは使いやすかったか？【五者択一】(回答必須)
- 1 使いやすかった 2 まあ使いやすかった 3 どちらとも言えない
4 少し使いにくかった 5 使いにくかった
- <仕様2>：教員の指示を受けてログインするプロセスは分かり易かったか？【五者択一】(回答必須)
- 1 分かり易かった 2 まあ分かり易かった 3 どちらとも言えない
4 少し分かり難かった 5 分かり難かった
- <仕様3>：教員から教室で一斉サポートを受けなければ、自力でログインしたり、スマホを使用したりするのは難しいと感じたか？【五者択一】(回答必須)
- 1 大いにそのように感じた 2 少しそのように感じた 3 どちらでもない/わからない
4 余りそのように感じなかった 5 全くそのように感じなかった
- <仕様4>：教員とのオンラインを通じたコミュニケーションは簡単だったか？【五者択一】(回答必須)
- 1 とても簡単だった 2 まあ簡単だった 3 この機能を使っていない
4 余り簡単ではなかった 5 全く簡単ではなかった
- <仕様5>：ぎゅっとeの<仕様>について、気づいたこと、感じたことがあれば自由に記してください。【記述式300文字以内】
- <内容1>：ぎゅっとeの内容に興味を持てたか？【五者択一】(回答必須)
- 1 興味を持てた 2 少し興味を持てた 3 どちらでもない
4 余り興味を持てなかった 5 全く興味を持てなかった
- <内容2>：難易度は自分に合っていたと思うか？【五者択一】(回答必須)
- 1 大いにそのように感じた 2 少しそのように感じた 3 どちらでもない/わからない
4 余りそのように感じなかった 5 全くそのように感じなかった
- <内容3>：もし定期的に3か月継続して学習したら実力が上がると思うか？【五者択一】(回答必須)
- 1 大いにそう思う 2 少しそう思う 3 わからない 4 余りそう思わない 5 全くそう思わない
- <内容4>：ぎゅっとeの<内容>に関して気づいたこと、感じたことがあれば自由に書いてください。【記述式300文字以内】
- <仕組1>：一時に全課題が出される形ではなく、少しずつ分割して課題が出されて継続的に学習する仕組みがあったら、効果が上がると思うか？【五者択一】(回答必須)
- 1 大いにそう思う 2 少しそう思う 3 わからない 4 余りそう思わない 5 全くそう思わない
- <仕組2>：一部の課題が一定期間だけ公開され、その期間の終わりに小テストがあって、それをクリアしないと加点されない仕組があったら、自分は課題に取り組むか？【五者択一】(回答必須)
- 1 大いにそう思う 2 少しそう思う 3 わからない 4 余りそう思わない 5 全くそう思わない
- <仕組3>：今回は成績に10点加点だったが、どのようなおまげがあったら、動機づけに寄与するか？(単位の無条件付与は除く。)【記述式1000文字以内】
- <仕組4>：ぎゅっとeの<施行方法>に関して気づいたこと、感じたことがあれば自由に書いてください。【記述式300文字以内】

参考資料2 設問別記述式回答全一覧（アンケートの自由記述を原文のまま掲載するにあたっては、本学の個人情報保護を順守し、個人が特定できないように配慮した。）

- ・ 通信制限が来てしまい家にネット環境がない場合やりにくさを感じてしまうと感じた。
- ・ セキュリティに少し疑問を持った。
- ・ ウェブのデザインが古すぎる。http://swf01.ejibから自分の大学のサイトに行くことができない。http://swf01.ejibから自分の大学のサイトに行くことができない。http://swf01.ejibから自分の大学のサイトに行くことができない。
- ・ 何となくはいいが、httpのまま送信されるので実害がないのであれば問題ないと思われる。またセッションが切れるのが早いと思う。後の方に書く予定があと、パスワードの管理がずさんであればこの機能はただただ邪魔である。
- ・ やってもやっても問題が増えていく。
- ・ スマフォではやりにくい。わかりにくい。
- ・ 習得のめしかやる時間がなかったが、読む量がやや多く、語の中にストーリーを描きつらう回答に書きにくかった。
- ・ 問題画面や回答画面でGoogle Spaceを押すとひとつ前の画面に戻ってしまうことが確認できた。
- ・ 問題の文章を読んでから解くというやり方がやりにくい。
- ・ 普通に多すぎる。
- ・ 読み込みが遅い。エラーが多い。
- ・ 問題が少し多いためなかなかやる気を出してやろうと思えなかった。もう少し区切って点数配分してくれたらもっと良い。
- ・ ⑥内容4「ぎゅっとe」の内容感想(回答数9)
- ・ 最初の説明文が長すぎて読む気にならなかった。解いた後に正解が出るが、なんでその答えになるかわからない。
- ・ Readingのみでしたが、ボジティブな内容だけでなく、幅広い感情やストーリーで面白かった。
- ・ 問題数が多すぎると一問一問に対しての意欲が落ちるのでもう少し減らしたほうが良いと思う。
- ・ 単語勉強の際、選択肢のボタンが小さくスマートフォンではやりにくさを感じた。
- ・ 特になし。
- ・ ⑦仕組3 勤続付け(回答数59)全員回答
- ・ もう少し加点が高かったらやると思う。
- ・ やるのならもう少し早い段階から始めれば、定期的にできた気がするが、期間が少し短く感じ、文法などが100点以上ありその時点で終わらないと思ってしまうので、少しやる気なくなってしまう。
- ・ やれと言われたことはやる。
- ・ 50点加算
- ・ 50点加算(注:同回答2通)
- ・ 一部テストの免除
- ・ テストの免除、テスト点と同様の点数の付与
- ・ 成績の100点はかなり大きいので今のままでいいと思う。
- ・ 加点配分をもう少し高めに設定する。
- ・ あの問題の量だともう少し点がほしい。
- ・ 同じ問題が期末試験に出る。
- ・ 問題数がとても多いと思った。もう少し減らせば全員のやる気も上がったかもしれない。
- ・ テストに出題される。
- ・ わからない。難しくなければいい。
- ・ それぞれ個人のレベルに合わせて段階的な英語技術習得の達成具合による加点
- ・ おまげがなくても課題として出されるとやると思う。
- ・ 点数配外なし
- ・ 成績に加点
- ・ 問題数が40問で一月もできなかったためそこまで英語力がついたと思えなかったし、100%達成で100点はさすがに低いと感じた。最初の講義から存在を覚えてもらえたら100点でもいいと思った。このやり方では20%で3点みたいな形で分割加点でもいいのではないかと考える。
- ・ 100点加点というのは、テストの点数に対してやった方がいいなと思えるところはないと思います。
- ・ 課題や小テストを分割する。
- ・ もう少し点数が高いならば取り組みたいと思った。
- ・ ⑧仕組4 施行方法への感想(回答数9)
- ・ 100点加点よかった。頑張る気になれる。
- ・ やれば点数がほしい。
- ・ 現状のままで結構です。
- ・ 同じように成績にわかりやすく反映される仕組みがあったほうが良いと思う。
- ・ たとえば、テストの点数があまりよくなかったときにこれによっての救済の可能性が出ることが出来るとなったなら動機づけには十分だと考える。
- ・ 今回の100点加点で十分だと思えます。
- ・ 全体の半分をやっていたら寄付する。
- ・ やる気
- ・ 欠席免除
- ・ 200点がよかった。
- ・ ⑨仕組5 実施方法への感想(回答数9)
- ・ 大学でないとできないところが、面倒だ。
- ・ ホキヤブフリーを先に学習できるようにすればよいと思った。そのあとにリーディングを行えばわかる単語が増えてより読解力を身に付けられると思った。
- ・ ないです。
- ・ パスワードの管理が少しずさんであると感じた。特に害はないと思うが。
- ・ サイトへ移動するのが少し複雑に感じた。パスワードも自分で設定できるほうが分かりやすいと思った。
- ・ パソコンだけでなくスマホでもできたのが通学時間方長いので良かった。
- ・ 量が多いですね。
- ・ ログインがめんどくさくてあまりやりたいと思えなかった。
- ・ (いずれも原文ママ)
- ・ ⑨仕組5 実施方法への感想(回答数9)
- ・ 100点加点が一つの所ではなく複数の課題だったため今度は一つの分野ごとに2点ずつやったら15点加点にすればいいと思う。分野の範囲をもっと減らすのもありだと思える。
- ・ 今回はreadingとgrammarを完結、listeningとgrammarを5割以上で100点加算だが、課題量に対し、加点量が少なく感じた為、加点量を増やせば取り組む人が増えるのではないかと考える。
- ・ 細かく加点基準を設けたほうが良いと思う。
- ・ 200点加点
- ・ 特になし
- ・ もう少し加点をしたらいいと思いました。
- ・ 学習量による点数加算
- ・ 100点加点
- ・ 今のままで良いと思う。
- ・ 減点制度
- ・ テストの予習になるもの
- ・ もう少し少なく
- ・ やることに最高で300点加点
- ・ 四つの項目があり、それぞれの苦手人があるもので、それに合わせて加点のものをかえたりするのもありだと思います。
- ・ 成績15点加点だったらがんばれます。
- ・ もう少し点数の区切りを分けて欲しい。
- ・ 加点
- ・ 一定量やらないとテストが受けられないようにする。
- ・ 試験が振るわなかった者への加点として使用していただけたら、自分の苦手な教材が頑張ろうと思える。
- ・ 成績に200点加点
- ・ もっと細かく点数配分を分けてくれたら良い。多すぎる。
- ・ もう少し加点が欲しい。
- ・ もともと英語に興味あまりありませんので、中国人として私はまず日本語をうまくなるつもりです。
- ・ 出席追加(足りない人限定)
- ・ 点数をもう少し上げるとやる気はでると思います。

